

令和6年度（第5回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和7年2月7日（金） 14時00分～15時45分
 - 2 開催場所 加古川市役所北館 大会議室
 - 3 出席委員 日置委員、坂田委員、岡本委員、後藤委員、岸本委員、久保田委員、兼子委員、徳田委員、小倉委員、山尾委員、高橋委員（11名）
 - 4 欠席委員 大山委員、菅原委員
 - 5 出席職員 小南教育長、杉本教育指導部次長、尾崎教育指導部参事、井上教育指導部参事、今津教育指導部参事、真鍋教育指導部参事、岡本社会教育課長、久保田加古川西公民館長、福島氷丘公民館長、田中中央図書館副館長、小浦中央図書館担当副課長、社会教育課（畑副課長、西森担当副課長（兼）学校教育課担当副課長、土屋地域教育係長、今井主査）
 - 6 傍聴者 0名
 - 7 議事要旨
- 開会 14時00分
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

（1）読書活動の推進について

（社会教育課、学校教育課、中央図書館より取り組み状況について報告）

委員

小学校では、図書ボランティアさんが定期的に来てくださり、図書の整理などの支援を行っていただいております。図書活動が円滑に進んでおり、大変助かっている。一方で、中学校においては、支援がなかなかなく、困っている現状がある。

また、本屋で見られるような、どの作家のどの本がどの棚にあるかが簡単に検索できるシステムがあれば、利用者にとって非常に分かりやすく、便利になると考えるが、このようなシステムの導入について、現在の状況をお聞かせいただきたい。

学校教育課担当副課長

現在市内のすべての小中学校に学校図書館システムが導入されており、図書の検索が可能となっている。これにより、図書がどこにあるかも把握できるようになっている。ただし、学校によってはデータの詳細度に差があり、配架場所まで細かく記録されていない学校もある。今後、各小学校の見学を行い、必要な支援を提供する予定である。

委員

公民館が主催するボランティア養成講座が実施されているが、こうした取り組みを通じて文化系のボランティアの育成をどのように継続していくかが課題と考える。また、活動の継続性や管理方法が今後の課題であるとの話があったが、具体的にどのようなことを検討しているのか伺いたい。

社会教育課担当副課長

公民館主催の読み聞かせボランティア養成講座を終えた方々については、両荘みらい学園の図書館イベントなどで活躍の場を提供することで、継続的な活動を期待している。また、今後、公民館との連携において、どのような形で活動を進めるかを検討していきたい。

と考えている。

学校への支援については、今年はまだ中学校のみを確認した段階で、来年度には全小学校の現状を把握した上で、効果的な支援方法を検討する予定であり、現時点では具体的な方針は決まっていない。

委員

学校司書の配置数の現状についてお伺いしたい。

学校教育課担当副課長

学校司書に関しては、資格要件は特に定められておらず、配置についても努力義務に基づいて行われている。本市においては、これまで学校司書が配置されている学校はなかったが、今年度から初めて両荘みらい学園に5名、学校司書を配置した。この学校司書は、地域開放サービスを担当する職員が、学校教育課の職員として学校司書を兼務しているものである。

この配置は、1校に対して5名という非常に多い人数であるが、その支援は両荘みらい学園だけでなく、市内の他の学校への支援も含まれている。今年度は、特に支援が必要な中学校に順次、支援活動を行った。

委員

いい取り組みだと思う。図書館のレイアウトやシステムが有効活用できるように配架を適切に行うなど、引き続き取り組みいただき、全市内に行き渡るように努力をいただきたい。

委員

図書の整理作業に多数の期間と人員が必要となっている。司書教諭という事務分掌を持っていたとしても、先生方が1人で進めるのは難しい。早く良い状態となるよう支援に取り組んでいただきたい。

委員

学習スペースの児童生徒の利用状況はどうか。

社会教育課担当副課長

学年などの詳細な情報は把握していないが、現場で見ていると、普段の利用者は主に小学校の4年生、5年生、6年生の前期課程の生徒が多く、試験前になると後期課程の7年生、8年生、9年生の利用が増加する傾向にある。また、水曜日の午後はノ一部活デーのため、後期課程の利用者が特に多くなる傾向が見られる。在校生に関しては、図書館に来館する際に、クラスと名前を記入してもらい、どの生徒が来館しているかを把握しているが、学年別の人数については把握していない。

委員

施設的环境については非常に素晴らしいと感じている。この環境を最大限に活用するために、児童生徒が共同で利用できる仕組みを作ることが大切だと考えるので工夫をお願いしたい。

委員

両荘みらい学園の児童生徒の放課後の図書館への来館ルートをお伺いしたい。また、帰宅時間はどのようにしているのか。

社会教育課担当副課長

前期課程の児童は、一旦スクールバスで自宅に帰ってから来館している。また、後期課

程の生徒は、放課後、学校の正門を出てから公民館側の入り口から入り利用していただいている。帰宅時間については、学校と連携しアナウンスするようにしている。

委員

隣接しているにもかかわらず、一度学校から出て、公民館側の入り口から入らないといけないということについて、こどもたちが来やすくなるように考えていただきたい。

委員

児童生徒以外は、どのくらい来館しているのか。

社会教育課担当副課長

赤外線カウンターにより集計しており、資料のとおり人数のみの把握となる。

委員

公民館の図書スペースも本を手に取りやすくする工夫をいただきたい。

委員

公民館を利用される方からの図書の寄贈がよくあるが、どのように整理するか、限られたスペースでどう配置するかなど、図書の整備は非常に大変な作業であったと記憶している。

加古川公民館の図書スペースの向かいにはソファがあり、来館者が時間を過ごす場所として利用されている。このように、用事がなくても公民館に行けば本が置いてあり、学習情報にも触れることができる環境があればいいと思う。

図書スペースの整理は、古い本や破れた本もあり、衛生面にも配慮が必要であるため、難しいところもあるが、このように支援をいただけていることがありがたい。

委員

人権文化センターにも本棚はある。教育委員会所管の施設だけでなく、人が集まる場所に本を配置しても良いのではないかと考える。

委員

大学生の状況としては、卒業論文の執筆のために中央図書館を利用する学生もいる。また、兵庫大学では教育学部もあるため、ボランティアなどで協力できる可能性はあると考える。図書の整理については、本に番号を振るなどの整備は早急にする必要があると感じた。

（２）公民館の主催講座の更なる充実について

（社会教育課より公民館魅力発信事業の取り組み状況について報告

委員

キッズチャレンジに関するアンケート結果では、８名の回答者が「どちらでもない」または「よくなかった」と回答あったことや「講座別の満足度」において、市民カレッジの「回答なし」が２５件と突出している点が目立っていた。要因についてお伺いしたい。

また、夜間趣味講座という名前が、夜間の趣味に特化したものと誤解される可能性がある。このままの名前を使用している場合は、趣旨に合致した名前を検討いただきたい。

社会教育課地域教育係長

キッズチャレンジに関するアンケートについて、受講者からの評価が芳しくなかったという意見があったが、アンケート内にはその理由を詳しく記載する欄が設けられておらず、

正確には把握できていない。実際には、講座内容と受講者の学年との間にミスマッチがあった可能性がある。今後は、受講者の対象を再検討するか、受講者に適したレベルの講座を選定するなど、見直しが必要だと考えている。

市民カレッジのアンケートに関しては、受講後に任意で回答を求めているため、回答数が限られてしまう状況となっている。回答数を増やすための方法を模索していきたい。

また、夜間趣味講座については、「プレシャスレッスン」として広報しているため、趣旨を誤解されるものではないものであると考えている。

委員

講座の名前は、一見してわかりやすいように検討いただきたい。また、アンケートを回収することは難しいのは理解するが、次に生かしていくために大事なものであるので回答数を増やすために工夫をいただきたい。

委員

市民カレッジの内容で受講者が増加したとのことでしたが、受講意欲が高まるように具体的に行った工夫についてお伺いしたい。

社会教育課地域教育係長

例えば、兵庫大学の教授を招き、生成AIについての講話をいただいたが、その際のタイトルを「この際から生成AIでも触っとこか、難しい話は抜きにして」にし、親しみやすいタイトルにするなどした。また、簡単にチラシが作成できるソフトを活用し、デザイン力が向上したと考えている。

委員

魅力発信事業は東加古川公民館で行われているが、東加古川公民館から離れた場所から来ている人はいるのか。また、広報はどの範囲で行っているのか。

社会教育課地域教育係長

受講者は、東加古川公民館がある平岡町からが最も多くなっており、次いで近隣の加古川町、野口町からが大半となっている。公民館エリアを中心とした受講が傾向としてある。

委員

魅力発信事業のノウハウを各館で共有するとのことであるが、当該公民館エリアに限らず市内各地から来ていただけるように広報していただきたい。

委員

経験豊富な公民館職員の方が努力いただいているが、公民館の利用者数や登録団体数が減少している現状にあり、私自身もどのようにすればいいのか悩んでいる。東加古川公民館は別格であり、この成功事例を他の公民館に波及させることは非常に難しい課題だと考えるが、少しでも利用者が増え活動が継続できる仕組みを、みんなで知恵を出し合い努力する必要がある。

委員

東加古川公民館は子育てプラザと併設、両荘公民館は学校や図書館と併設したことにより、特色ある施設となった。各中学校区に地域のコミュニティの拠点を整備するという観点から、どの公民館も大ホールや和室、調理室を備えて、同じような形で整備してきた経緯がある。公民館は、人と人とのふれあいや居場所が存在意義であると考え。様々な機能や特色を持たせたり、連携を深めたりするなど、時代の流れから、今後は特色のある公

民館を作っていくことが求められると考える。例えば、若い人が集まりやすいスタジオや鏡張りの部屋、録音室、スカッシュができる公民館など、特色を持たすことができればと考える。

委員

それぞれの公民館において、例えば中学生が学習できるスペースや、不登校の子どもたちが集まれる場所が作ることは、どの地域でも実現可能であるとする。また、各公民館が独自の魅力を持つことで、「あそこの公民館には面白いものがある」といった形で、横の連携もとりながら魅力的な公民館になればと考える。

委員

先日、社会福祉士の国家試験が行われたが、新しいカリキュラムの第1回目の試験であり、合格率は低下する見込みとなっている。新しいカリキュラムでは、事例問題の割合が増加し、事例問題を解くためには集中力が求められるため、普段から本を読んでいない学生たちはその集中力を維持できず、結果的に良いパフォーマンスを発揮できないという問題が生じている。

集中力を養うためには、図書に触れるあう機会を作ること、好きな本をしっかり読むことができるスペースを作ることが大切であり、こどもたちの将来の可能性を広げるためにも、本を身近に感じることができる環境づくり大切である。また、問題解決型の試験に対応するためには、議論の場を提供することも大切である。学校内だけでなく、公民館のような場所で異年齢の人々が集まり、ディスカッションを行う場を作っていくことが、求められると考える。

また、今後10年間で発達障害の診断基準が狭くなる予定となっている。ますます多様性を尊重する社会が求められるようになる。さまざまな人々と関わり、様々な本を読み、多様な考え方や価値観に触れることが大切だと考える。

委員

加古川市内には赤ちゃんが遊べる場所が少ないと感じている。公民館はいろんな部屋があるので、子育て中の親が来れるような取り組みが期待されると考える。そこで育った子どもたちが公民館に帰ってくるという循環を作ることができればと思う。

委員

公民館という名称が少し敷居が高いと感じる。こどもやお母さんが親しみやすい名称が良いのではないかと考える。

委員

学校で学べない内容を公民館で学ぶことができるように、学校と公民館の協力体制を強化することが求められていると考える。

(3) 令和7年度社会教育委員活動計画(案)について

(社会教育課より説明)

委員

特にご意見がなければ、私と事務局でその内容について協議させていただき、検討していきたいと思う。後日でも構わないので、希望があれば私か事務局まで連絡いただきたい。

(報告事項)

(１) 兵庫県社会教育研究大会(11/27)の参加報告について

(その他)

○ 閉会 15時45分
副委員長あいさつ

以 上